

# 令和5年度 2学期始業式

県立伊和高等学校

校長 出口 勇人



栗山英樹氏、61歳。

2023WBC(ワールドベースボールクラシック)で  
日本代表監督として世界一に導く

1984: ヤクルトに入団。現役7年間

東京学芸大の国立大からの入団は初めて

外野手でゴールデン・グラブ賞を受賞する活躍

1991: 野球解説者やスポーツキャスター、

白鷗大学教授。情報番組『熱闘甲子園』で司会や取材を担当。

2012: 日本ハム監督を10年間

就任1年目にリーグ優勝、5年目の2016年には現在、大リーグ・エンジェルスでプレーする大谷翔平選手などを擁し、リーグ優勝と球団史上3回目の日本一に。

2021: 野球日本代表監督に就任

2023年3月22日:

WBCで「侍ジャパン」日本代表を優勝に導く

## 栗山ノート2 ～世界一の軌跡～ ①②

### ①「無用の用」(佐々木朗希の話)

- ・一見すると役に立たないように見えるとが実は大きな役割を果たしている。
- ・常識とか先例にとらわれて「無用」だと決めつけず、どんなことにも可能性を見つけだすべきだ。

### ②「益はなくとも意味はある」(選手起用の話)

今すぐに有益でなくても、のちに役に立つ。

「とにかくやってみる」で、どうしたら上手くいくのかを考えて具体的に準備をして実際に行動してみる

## 栗山ノート2 ～世界一の軌跡～ ③④

### ③「修辞」(村上宗隆の話)

- ・簡潔かつ明瞭に、効果的でわかりやす生きた言葉で思いを伝えること
- ・「言わなくてもわかってきている」では、場面によっては誤解を招いてしまいます。

### ④「一期一会」(ヌートバーの話)

- ・人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。  
一瞬早すぎず、一瞬遅すぎず。
- ・人との出会いを大切にして、節度・規律を重んじる

## 栗山ノート2 ～世界一の軌跡～ ⑤

### ⑤「無私道」(勝利を収めて)

- ・人はなぜ生きているのかと問われて「誰かに喜んでもらうため」と答えた。
- ・己を捨てて、チームを。チームメイトを生かす道を究める。

### 「利他の心」: 稲盛和夫氏の言葉

- ・世のため人のために尽くす。
- ・人はひとりでは生きられない、感謝の気持ちを忘れない

### 「熱意、誠意、創意」: 井上康生氏の言葉

まず、情熱に満ちた熱意を持ち、感謝の気持ちを表す  
誠意を持ち、惰性にならない創意を生む

(勝利のための心得)